

“今日”の「芸術」と「教育」の 共通構造を捉える

—美術することの人間学と、美術教育学の課題—

- 開催日 2014年12月20日(土) 午後1時～4時
- 場 所 CCAAアートプラザ「ギャラリーフレンド」 〒160-0004 東京都新宿区四谷4-20
- 参加費 無 料 (事前申込不要です。多くの方にご参加頂きたいと考えております。是非お気軽にご参加ください。)
- パネラー 谷口幹也×神野真吾×相田隆司×柴田和豊

■ 主題趣旨

戦後日本の代表的な美学者である山本正男(1912-2007)は、かつて「美術教育は根源的に『美術することの人間学』を踏まえるべきである」と提言しました。本地区会では、山本正男の提言に関する研究報告、今日の「芸術」に関する実践研究報告、今日の「教育」に関する研究報告、そしてディスカッションの場を通じて、山本の提言の今日的な意味を検証し、“今日”の「芸術」と「教育」の共通構造を捉えることを試みます。本地区会が多くの方々、美術教育を考える多分野の方々との交流の場となれればと考えております。

◆主 催：美術科教育学会 ◆共 催：現代〈A/E〉部会、科学研究費助成基盤研究(C)「戦後美術教育における人間像の変遷と美術教育実践の多様化」

◆問い合わせ先：谷口幹也 tmikiya@kwuc.ac.jp

※本地区会は、一部、科学研究費の助成を受け開催致します。

■ パネラー紹介

谷 口 幹 也 （九州女子大学／芸術教育学）

東京学芸大学大学院修士課程修了。人間という存在の不思議さに向き合い、芸術の社会における役割、表現行為の教育的意味とその可能性を研究している。そして現在、戦後美術教育の歴史的検証を行う。著作に「危機に立ち向かう意志と身体—創美の今日的意味と可能性—」（『美育文化』2014年1月号）、「精神を見る：苦悩に触れる」（『現代アートの本当の見方』フィルムアート社）、「境界空間としての美術教育—『今を生きる私』の多層性を学ぶ美術教育を目指して—」（美術科教育学会『美術教育学』27号）などがある。

神 野 真 吾 （千葉大学／芸術学）

東京芸術大学大学院修士課程修了。千葉アートネットワーク・プロジェクト(WiCAN)実行委員長。アートを核とした多様な活動を企画し、現代社会の今日的課題に対する実践的ソリューションを提案実践する。著作に「危機の時代とアート」（『講座哲学第7巻 芸術／創造性の哲学』岩波書店）、「実際の教科へ ～個性・創造性の捉え直し～」(『教育研究』no.1328, 初等教育研究会)、「美術という「文化」を考える」（『美術教育の題材開発』武蔵野美術大学出版局）などがある。

相 田 隆 司 （東京学芸大学／美術教育学）

東京学芸大学大学院修士課程修了。児童生徒の”授業メディア化”を脱し、ほんとうにほんとうに必要な教育とアートの必然的接合地点をめぐって探究している。いまは、アートに對峙し浮上する教師の存在論、その語り直しに向けた研究をしている。著作に「美術教育の いまと創造主義」（『美育文化』2014年1月号）、「主体的に生活世界に関わるための美術教育をめぐって-デジタルカメラを用いて反復する短い映像作品を作る探究的実践を通して-」（美術科教育学会『美術教育学』第32号）などがある。

柴 田 和 豊 （芸術教育論）

東京芸術大学大学院修士課程修了。1975年以降、宮崎大学、三重大学、東京学芸大学の実教育学部に勤務し、美術教育を担当。その間「教育と美術がどう出会うか」「美術の教育的機能」「美術教育の原点帰りと現代化」などの視点からの考察と、美術教育の実践的プランの組み上げに取り組む。著作に『メディア時代の美術教育』（国土社）、「子どもの側に立った教育は存在するか」（『美術教育学』建帛社）、「美術教育の人間学のために」（『美術教育再生の論理を求めて』北冬書房）などがある。

■ 会場・交通案内

CCAAアートプラザ

元四谷第四小学校の跡地利用で出来た「四谷ひろば」内にあります。教室を利用した貸しギャラリー「ランプ坂ギャラリー」が3部屋・常設展示の手で見るギャラリー「ギャラリーフレンド」・各種の講座が開かれている「図工室」・美術教育関係の資料を集めた「アーカイブセンター」（現在資料整理中）となっていて、これら全体をCCAAアートプラザといいます。運営はNPO法人市民の芸術活動推進委員（CCAA）。

アクセス

東京メトロ丸の内線 四谷三丁目下車 徒歩 5 分

都営地下鉄新宿線 曙橋駅下車 徒歩 7 分

